

# 薬の伝言板～インフルエンザ～



No. 240 2017年11月

丸子中央病院 薬局



## インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスがのどや気管支、肺で感染・増殖することによって発症する病気で、強力な感染力があり、いったん流行すると、年齢や性別を問わず、多くの人に短期間で感染が広がります。

- ◆ 流行期：季節性のインフルエンザは、日本では毎年11月～4月に流行が見られます。
- ◆ 感染経路：咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるインフルエンザウイルスを吸い込むことによって感染します。体内に侵入したウイルスはのどや気管支、肺で急激に増殖します。



## インフルエンザの症状～風邪との違いは？～

	風邪	インフルエンザ
発症時期	1年を通じ散発的	冬期に流行
発熱	通常は微熱(37～38℃)	高熱(38℃以上)
主な症状	くしゃみ、のどの痛み 鼻水、鼻づまりなど	全身の倦怠感、食欲不振 関節痛、筋肉痛、頭痛 咳、のどの痛み、鼻水など
症状の進行	緩徐	急激
原因ウイルス	アデノウイルス ライノウイルスなど	インフルエンザウイルス

## 予防



- ◆ 手洗い・うがい・マスク：外出後の手洗い・うがいは感染予防の基本です。インフルエンザが流行してきたら、特に高齢者や慢性疾患を抱えている方などはなるべく人混みへの外出を控えましょう。やむを得ず外出するときは、マスクを着用しましょう。
- ◆ 栄養と休養を十分にとる：  
体力をつけ、抵抗力を高めることで感染しにくくなります。
- ◆ 適度な温度・湿度を保つ：  
ウイルスは低温、低湿を好み、乾燥しているとウイルスが長時間空中を漂います。加湿器などで室内を適度な湿度(50～60%)に保ちましょう。



### ◆ 流行期前のワクチン接種

インフルエンザの予防には、ワクチン接種が有効です。ワクチン接種により、感染後に発症する可能性を低減させる効果と、発症した場合の重症化防止に有効とされています。

ワクチンは、毎年どのウイルスの型が流行するかを予測して製造されていますが、今年は入荷が全国的に遅れています。

ワクチンの準備ができ次第当院でもお知らせを貼り出す予定です。



### 薬物治療

- ◆ 抗インフルエンザ薬：体内でインフルエンザウイルスの増殖を抑える薬で、病気の期間と症状の重さを軽減する効果が優れています。経口薬と吸入薬、点滴、小児用のドライシロップがあります。

剤形	薬品名(用法)
内服薬	タミフルカプセル・ドライシロップ(5日間内服)
吸入薬	イナビル吸入(1回のみ吸入)、リレンザ(5日間吸入)
注射薬	ラピアクタ(内服や吸入ができない患者さんの症状に合わせて使われます)

これらの薬を飲み始めて熱が下がっても、体内のウイルスがすぐにはなくなるわけではありません。お薬を途中でやめることで体内に残っているウイルスが周りの人に感染する可能性がありますので熱が下がった後もお薬はきちんと飲みきりましょう。

- ◆ 対症療法：高熱の場合には解熱鎮痛剤、細菌感染が疑われる場合には抗菌薬も使用します。

インフルエンザウイルスは48時間以内にウイルスの増殖のピークとなるため48時間以内に服用しないとお薬の効果が現れにくくなります。

インフルエンザかな?と思ったら、なるべく早めに医療機関を受診しましょう。

自宅では安静にして体を休めるとともに、咳エチケットを心がけて他の人にうつさないようにすることも大切です。

